本郷村絵図

　この絵図には本郷村が描かれています。黄色は「田地」、赤は「道」、青は「池川」・・・と色分けされて描かれ、よく見ると小字や村境、寺社かかれており、その土地がどんな様子であったのかが分かります。

　尾張藩は江戸時代後期、藩内の村々に村の絵図を提出するよう求めました。その理由は、行政上必要であったため、地誌である『尾張志』編纂に関係して必要であったため、といわれています。そして、この絵図は孤松斎樵玉によって描かれたものです。藤島町にも同筆の村絵図が残っています。孤松斎樵玉は江戸時代の文化文政期に長久手で活躍した絵師で、長久手の安昌寺には、岩作八景のもとになった「岩作八景図屏風」が残されています。孤松斎樵玉の兄（または父）である浅井惣助は岩作村の庄屋を務めており「庄屋　浅井惣助」と書かれた岩作村の絵図（嘉永期）も残っています。兄である浅井惣助も絵師として月雪斎樵山と号しており、兄弟は他にも寺へ寄進する仏画など、多くの作品を手がけました。